

---

## 第3回古賀市環境審議会生物多様性専門部会 議事録

---

- 1 期日 平成30年12月26日(水曜日)14時00分から16時05分まで
- 2 場所 古賀市役所 303会議室(第2庁舎3階)
- 3 出席委員(5名)

部会長	薛 孝夫	部会員	鬼倉 徳雄
部会員	柴田 幸次	部会員	中屋 允雄
部会員	水上 シゲ子		
- 4 欠席委員(2名)

部会員	崎村 泰道	部会員	嶺井 久勝
-----	-------	-----	-------
- 5 オブザーバー(2名)

福岡県環境部自然環境課 課長	岩崎 高行
(代理出席 福岡県環境部自然環境課 野生生物係長	入江 美歌)
福岡県保健環境研究所環境生物課 課長	須田 隆一
- 6 事務局出席者職氏名

環境課長 智原 英樹	環境整備係長 船津 真里子
主任主事 吉澤 祥子	
- 7 議題等
  - ・ 前回の協議事項
  - ・ 生物多様性地域戦略策定までのスケジュールについて
  - ・ 生物多様性地域戦略について
- 8 配布資料

(事前配布)	次第
	資料1 前回の協議事項
	資料2 生物多様性地域戦略策定までのスケジュールについて
	資料3 生物多様性古賀戦略(事務局案)

## 概要

---

### 1. 開会

---

- ・部会員の半数以上の出席があることから、会議が成立したことを報告。
- ・協議中に希少種の生息場所や環境などが外部に知られてしまう可能性があることから、会議を非公開とすることについて部会員の承認を頂いた。

---

### 2. 部会長あいさつ

---

(薛部会長)

本日、この部会でどの程度の協議が必要なのかについては、後ほど事務局からご説明があると思うが、部会に期待されていることが協議し終えるように、委員の皆様にはご協力をお願いしたい。

---

### 3. 議題

---

#### (1) 前回の協議事項

- ・【資料1】に沿って、前回いただいた意見とその対応について事務局より説明。
- ・質疑・応答。

○ 部会長： 前回の部会での意見に対して丁寧に対応していただいている。修正されたものについては、生物多様性古賀戦略（事務局案）を後ほど説明されるときに確認していけると思うので、次の議事へ移らせていただく。

#### (2) 生物多様性地域戦略策定までのスケジュールについて

- ・【資料2】に沿って、生物多様性地域戦略の構成、検討の進め方、「古賀の将来像」の投票、ぐりんぐりん古賀を対象としたワークショップについて事務局より説明。
- ・質疑・応答。

○ 部会長： 「古賀の将来像」の投票を受け付けているとのことだが、候補の中の一部を変更したらいいという意見等も併せて聞いてみるという方法を取り入れてもよかったかもしれない。

● 事務局： 投票用紙には、選んだ理由を記載する欄があり、投票してもらったご意見の中には、候補2つを合体させてはどうかなどの意見もある。こういった意見も含めて、次回の部会で投票結果の報告をさせていただきたい。

(3) 生物多様性地域戦略について

・【資料3】に沿って、生物多様性古賀戦略（事務局案）について事務局より説明。

・質疑・応答。

○ 部 会 員 : 【3 ページ : 3 つの多様性】

「種の多様性」の部分に掲載しているタナゴは、古賀市に生息していない種も含まれている。古賀市で生息が確認されているアブラボテを入れてはどうか。

“種類の違う生きものたちは、互いに関わりあって生きています。”との説明もあるので、マツカサガイもいいのかも。アブラボテやニッポンバラタナゴなどのタナゴ類は、マツカサガイなどの二枚貝に産卵するため、互いに関わりあって生きていくことがわかる。写真も用意できるだろう。

● 事 務 局 : 修正させていただく。

○ 部 会 員 : 【5 ページ : SDG s】

文書の最後に“一見生物多様性との関わりが浅いと思われるゴールとも関わりが見られます。”とあるが、関わりが浅いということは、すでに関わっているということなので、表現を検討してはどうか。

● 事 務 局 : 検討させていただく。

○ 部 会 員 : 【6～11 ページ】

見開きで2ページがつながるようなページは、文章が読みにくい。

● 事 務 局 : 修正させていただく。

○ 部 会 員 : 【7 ページ : 古賀を知ろう】

文章中の“里”、“まち”の色は読みにくい。

● 事 務 局 : 修正させていただく。

○ 部 会 員 : 【6 ページ : 生きものがにぎわう場所④里地】

今在家地区で工業団地として開発が行われることがわかっているのであれば、今在家の周辺をはずして“里地”として紹介する方がいいのではないかな。

○ 部 会 員 : このページは希少種等の生息場所も参考に選定している。今在家や新原は工業団地としての開発が予定されている地域ではあるが、実現できるかどうかは別として、生物が住めるように配慮していくために、今在家まで含まれている。

○ 部 会 員 : 【7 ページ : 生きものがにぎわう場所⑩古賀ダム周辺】

水位低い写真だと思うので、満水の写真の方がきれいな気がする。

● 事 務 局 : 写真を差し替えさせていただく。

○ 部 会 員 : 【8 ページ : 生きものがうみだす大気と水と土】

タイトルの“うみだす”はあえて平仮名にしているのか。

● 事 務 局 : 生物多様性の恵みについて紹介している環境省のホームページを参考に平仮名としているが、わかりにくいようであれば漢字へ修正する。

○ 部 会 員 : “雨が降ると、森林や田畑は雨を蓄え、”の部分は、“雨”ではなく“雨水”の方がわかりやすいのではないかな。

● 事 務 局 : 修正させていただく。

- 部 会 員 : 【9 ページ：文化の多様性を支える】  
最後の文章の“そのかたちは地域によって様々で、それが個性となっています。”の部分の“そのかたち”とは、放生会をさすのか、地域の文化をさすのか。
- 事 務 局 : 放生会を含めた地域文化をさしているが、わかりやすいように修正させていただく。
- 部 会 長 : 【10 ページ：「生物多様性」を困らせているのは誰？】  
“「生物多様性」を困らせている”という表現はおかしくないか。
- 部 会 員 : “困らせている”という言葉を使うのであれば“生きものを困らせる”、“生物多様性”という言葉を使うのであれば“弱らせている”の方がいいのではないか。
- 部 会 員 : 【10 ページ：里地里山などの手入れ不足による自然の質の低下】  
シカやイノシシは、バランスが崩れることで増えているのか。シカは暖冬の影響もあると言われている。“生きものたちのバランス”という表現方法について、もう一度検討をしてほしい。
- 部 会 長 : 10 ページについては、事務局と福岡県とで検討していただきたい。
- 部 会 員 : 【11 ページ：外来種の持ち込みなどによる生態系のかく乱】  
“外来種の持ち込みなど”というタイトルなので、生きものへの影響を与える要因がいろいろ記載されているが、古賀市はごみ減量などに積極的に取り組んでいるイメージなので、ごみ関係の要因をひとつの項目として独立させてもよいのではないか。
- 部 会 長 : この部分は国家戦略の4つの危機について記載している部分でもある。タイトルを国家戦略に近いものに変更してはどうか。
- 事 務 局 : 修正させていただく。
- 部 会 員 : 【11 ページ：校歌の中の自然】  
古賀西小学校の校歌の“かもめ”、千鳥小学校の“松の音”など、自然や生きものに色がついていない部分がある。
- 事 務 局 : 事務局で見直しをさせていただく。
- 部 会 員 : 【19 ページ：戦略の期間と対象区域】  
なぜ15年間の戦略期間は設定したのか。福岡県は10年だったと思うが、他自治体と比べてどうか。
- 事 務 局 : 生物多様性古賀戦略の上位計画にあたる古賀市環境基本計画の計画期間を考慮した期間となっている。第2次古賀市環境基本計画はあと5年、第3次古賀市環境基本計画は10年となっていることから、古賀市環境基本計画の改定を見越した期間として、15年という設定としている。
- オブザーバー : 他自治体では15年以上の期間を設けているところもある。戦略の期間としては15年でもいいとは思う。ただし、個々の施策については15年という期間は長すぎるので、必要に応じた見直しについて記載しておいた方がいいだろう。

- 事務局 : 41 ページの「戦略の進行管理」の部分には、社会・経済情勢へも柔軟に対応し、上位・関連計画との整合性を図りながら必要に応じた見直しを進めていくことを記載している。
- 部 会 員 : 古賀市環境基本計画と生物多様性古賀戦略の改定に時期が重なることで、見直しを行う行政は大変にならないかという心配もある。
- オブザーバー : 福岡県においても、環境基本計画と生物多様性地域戦略の終期を合わせる方向で検討している。
- 部 会 員 : 古賀市では、環境基本計画とごみ処理基本計画も同じタイミングで改定するように期間を合わせていたと思う。
- 部 会 長 : 【22～23 ページ：生物多様性古賀戦略と SDG s の関係】  
オブザーバーからご意見があつて加えてもらった SDG s だが、この部分に唐突に国際的なものとの関連が出てくるところに違和感がある。
- 部 会 員 : 古賀市の戦略としては、もっと地域に根差したもののようなイメージの方がいいのではないか。
- 事務局 : 11 月に開催した環境審議会において、環境基本計画の見直しについてご協議いただいた。SDG s との関連性を記載してはどうかというご意見もいただいていたため、こちらの戦略にも掲載させていただいた。
- オブザーバー : 共通言語として SDG s は不可欠だと思う。関連性の強弱はあるだろうが、強いつながりとしては、14. 15 のゴールだろう。それに付随する関連性をどこまで記載していくかというところは見直す必要はあるだろう。ターゲットまで見ると、あてはまるゴールも出ているため、施策を確認しながらの整理が必要ではないか。
- 部 会 員 : 全体的な読みやすさを考慮したときに、SDG s との関連性を、このページに記載すべきなのかという印象はある。3 章の最後に資料のように記載し、施策を国際的な SDG s に当てはめるとどうかというイメージにしてはどうか。
- オブザーバー : 福岡県の戦略においても、SDG s との関連性は参考資料として扱っている。
- 部 会 長 : ご意見を参考に事務局で修正いただきたい。
- 部 会 員 : 【24 ページ：生物多様性に関する情報発信・普及啓発】  
26 ページは“情報提供”、24 ページは“情報発信”となっているが、表現が違ってよいか。
- 事務局 : 24 ページは啓発の意味合いも含めて情報を積極的に発信していくというイメージ、26 ページは情報の共有化に向けて提供をしていくというイメージを持たせている。
- 部 会 員 : 24 ページのタイトルは“情報発信”を削除して、普及啓発だけにし、取組内容の中に情報発信と記載されていればよいのではないか。
- 部 会 員 : 【26 ページ：いきもの見つけ隊】  
アサギマダラの幼虫のキャプションについて、「いきもの見つけ隊」が見つけているので、“昆虫教室で見つかった”より、“昆虫教室で見つけた”の方がいいのではないか。
- 事務局 : 修正させていただく。

- オブザーバー： 【27 ページ：希少生物の保護・保全】  
「山から海までのつながりを意識した生態系の保全・再生」という方針のひとつの取組となっているが、希少種・重要地域を保全していくという2つの取組からなる方針を「Action 2. 生物多様性を守る」の1つ目の方針とし、重要地域については、千鳥ヶ池などの名称を出した取組とした方がいい。2つめが生態系の保全・再生というように、5つの方針で構成される Action としてはどうか。  
【27 ページ：農地の保全・再生/河川の保全・再生】  
環境保全型農業、多自然川づくりなどの取組について記載されないと、生態系の保全という部分では不十分だろう。  
【27 ページ：松林の保全・再生】  
森林の保全・再生との区別が必要かもしれない。白砂青松についても違うページで出てくるため、“海岸の保全”などとした方がいいだろう。
- 部会員： 【27 ページ：海の保全・再生】  
“市民のレクリエーションの場、場として”の部分はこれでよいのか。
- 事務局： “、場”は削除させていただく。
- 部会員： 【29 ページ：外来種】  
“もともといなかった地域に持ち込まれた場合”とあるが、もともといたところに持ち込まれた場合にも問題になるのではないか。
- 部会員： この程度の表現しかできないのではないかという気もする。  
古賀市ではほしくないこととして、観賞魚であるタイリクバラタバゴを放さないようにすることが挙げられる。場所には触れず、タイリクバラタバゴの放流により、在来種が危機的状況に陥っていることを紹介するようなコラムにしてもいいのではないか。
- 部会長： タイリクバラタバゴだけでなく、アカミミガメやウチワゼニクサも同じように問題となっている。タイリクバラタバゴ以外の外来種も含めて問題であることを伝えるような内容となった方がいいのではないか。
- 部会員： アカミミガメについて記載するのであれば、“ミシシッピアカミミガメ”と記載した方がいいだろう。
- 部会員： アカミミガメやウチワゼニクサなども、もちろん問題ではあるが、タイリクバラタバゴは特定外来生物ではないので、特に印象づけておく必要があるような気がする。コラムの中では、最終的に特定外来生物への対策が必要なイメージになっている。
- 部会員： 特定外来生物以外でも注意を呼びかけることは必要な気がするので、特定外来生物でない外来種にも注意をしてもらうようなコラムにしてはどうか。
- オブザーバー： 福岡県侵略的外来種リストでは、タイリクバラタバゴも重点対策外来種として選定している。
- 部会員： 生物に詳しくない方は、外来種がいることでどんな影響や被害があるのかはわからない。

- 部 会 員 : 外来生物法については、コラムの中で触れた方がいいのか。むやみに外来種を放さないような啓発のコラムにしてはどうか。
- 事 務 局 : 28 ページの取組の中に“特定外来生物への対策”があり、特定外来生物についての説明も兼ねて、コラムの中で紹介している。
- 部 会 員 : 28 ページの取組の“特定外来生物”という記載をせずに、“生態系や人間に被害を及ぼす侵略的外来種”などへ修正してはどうか。
- オブザーバー : “外来生物法”や“特定外来生物”などの言葉は残しておいた方がいいだろう。取組については、侵略的外来種と特定外来生物を併記してはどうか。
- 部 会 長 : コラムについては、ペットショップで売られているような観賞用の動植物でも、自然の中に放すことで生態系などに影響を与えることがあるという内容を記載した方がいいだろう。
- 部 会 員 : 外来種と特定外来生物についてのコラムを作るのであれば、分けた方がよいかもしれない。
- 事 務 局 : ご意見を参考に事務局で修正させていただき、確認をお願いしたい。
- オブザーバー : 【32 ページ：地域資産の継承】  
コラムや取組など、伝統的なものと特産品の整理をした方がよい。あまおうについては、35 ページの「生物多様性の恵みを活かした特産品づくり」にも記載されている。促成栽培が環境にとってやさしいのかという部分はあるが、みつばちがいないと実がならないという観点からすると、生物のつながりという部分では重要という見方もできる。
- 部 会 員 : 地域資産として記載してある“まんま実～や”についても、この部分よりは、35 ページの「生物多様性の恵みを活かした特産品づくり」に近いところに記載される方がいいだろう。
- 部 会 員 : 【35 ページ～：生物多様性を活かす】  
古賀市としてできるかどうかかわからないが、佐賀県では県が管理する農業用水路の改修は、県内の間伐材を利用した木柵工と決めている。公共事業において、地域の資産を活用していくという取組が入ってくるといいのではないか。
- 事 務 局 : 古賀市では、「古賀市内の公共建築物等における木材の利用の促進に関する方針」を策定し、県産木材利用の推進についての周知等も行っている。35 ページの「地域木材の活用」でも、公共工事に地域木材を活用していくことも記載している。
- 部 会 員 : 木柵工の農業用水路の耐久性はどの程度か。佐賀県では、農業の後継者も育っており、木柵工の農業用水路の管理もしていけるかもしれないが、古賀市では農業の後継者が少ない状況にある。

- 部 会 員 : コンクリートを使用した場合の耐久年数は約 50 年、木柵を使用した場合だと約 15 年程度だが、コストパフォーマンスは木柵の方がよいとの計算結果により、佐賀県が管理する水路については木柵工を取り入れている。ただ、市町村レベルや水利組合管理の水路については、手間がかかるので難しいのかもしれない。
- 部 会 長 : 取組としては、35 ページの「地域木材の活用」に記載されている程度として、ご意見いただいたようないい事例や先進的な事例が集まればコラムで紹介するなどを検討してはどうか。
- 部 会 員 : **【35 ページ：地域木材の活用】**  
“公共建築物の木造化及び内装の木質化や公共土木工事における資材利用の推進に努めていきます。”とあるが、“資材”ではなく、“木材”にしてはどうか。
- 事 務 局 : 所管課へ確認し、修正させていただく。
- 部 会 員 : **【35 ページ：魅力ある地域づくりへの活用】**  
「歩いてん道の普及」が取組の中の初めになっているが、方針の中では観光の振興や特産品づくりの方が「魅力ある地域づくりへの活用」という方針に近いのではないか。
- 事 務 局 : 修正させていただく。
- 部 会 員 : **【36 ページ：歩いてん道】**  
地図と写真がリンクするように数字などを入れてはどうか。
- 部 会 長 : 健康に関することが全面に出てきているように感じる。戦略の中では、地域資産や自然に気付けるというところを強調するようなコラムにした方がいいのではないか。
- 事 務 局 : 修正させていただく。
- 部 会 員 : **【41 ページ：戦略の位置づけ】**  
戦略の位置づけについては、このページへの記載でいいのか。
- 事 務 局 : 通常であれば、2 章「将来を描く」に記載するだろうが、この戦略の前半部分は啓発も兼ねて、小学生高学年程度でも読みやすいものとなるようにしている。41 ページの「戦略の進行管理」では、上位・関係計画との整合性を図ることも記載しているため、このページへ記載させていただいた。
- 部 会 員 : 「戦略の位置づけ」というタイトルにはなっているが、上位・関係計画との連携・調整を図りながら、様々な主体と取組を進めることが記載されている。「戦略の進め方」などにタイトルを修正にしてはどうか。
- 部 会 員 : **【41 ページ：戦略の進行管理】**  
図の中の矢印が見にくい。
- 事 務 局 : 修正させていただく。
- 部 会 員 : **【全体】**  
古賀市都市計画マスタープラン、古賀市子ども・子育て支援事業計画など、古賀市の他の計画等も再度確認し、生物多様性保全に貢献しそうな取組はぜひ記載をした方がいいだろう。



---

#### 4. その他

---

- ・第4回古賀市環境審議会生物多様性専門部会は、平成31年1月22日（火）14時からの開催。会場については、改めてお知らせさせていただく。
- ・ぐりんぐりん古賀を対象としたワークショップを、平成31年1月15日（火）15時から開催。部会員の皆様もご都合がつくようであれば、ぜひご参加いただきたい。

---

#### 5. 閉会

---